

フリーフローアー CP-SEシリーズ  
CPR-SE 施工要領書



# 目 次

1:はじめに	……3
2:製品概要	
2-1. 工法概要	……3
2-2. 構成	……3
2-3. 製品規格	……4
2-4. 床パネル規格	……5
2-5. 制振マット規格	……5
2-6. 別売部材「CPドライバー」	……5
2-7. システム根太SG規格	……6
3:床高調整範囲	……7～8
4:施工手順	
4-1. 施工を始める前の確認・点検事項	……9
4-2. 施工手順	……10～15
5:システム根太SG配置方法	……16～19
6:制振マットの施工に関する注意点	……20
7:仕上げ材の施工に関する注意点	……20
8:捨張合板の施工に関する注意点	……21
8:納まり図	……22
9:標準割付図(壁先行工法)	……23

## 1. はじめに

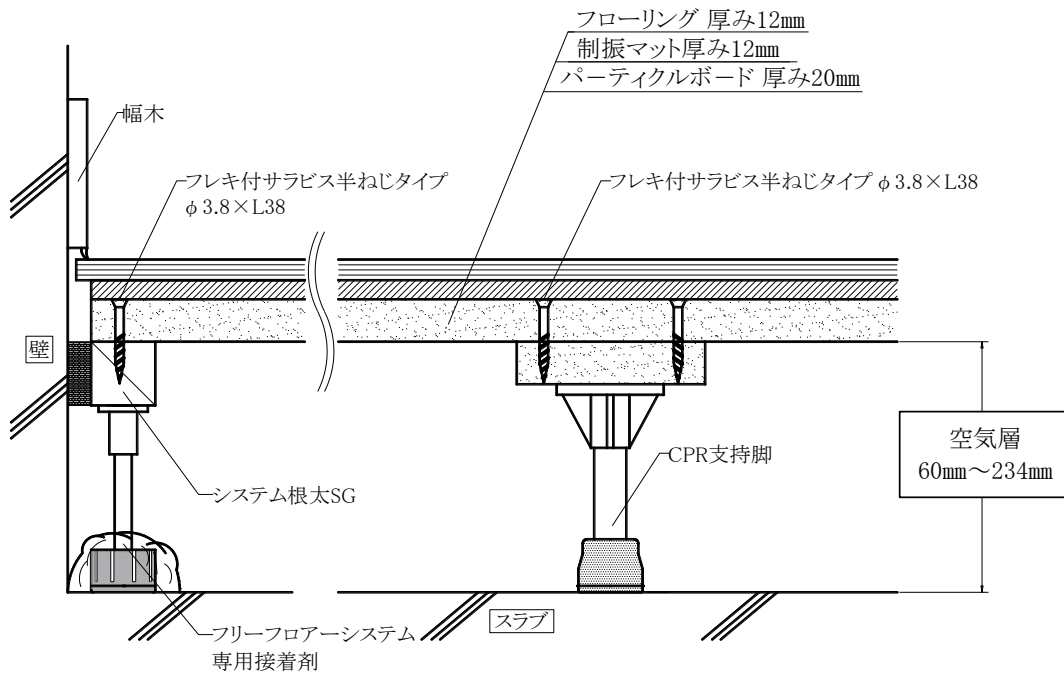
「CPR-SE 施工要領書」は「フリーフローアーCP-SEシリーズ CPR-SE」の床下地工事に適用する。

## 2. 製品概要

### 2-1. 工法概要

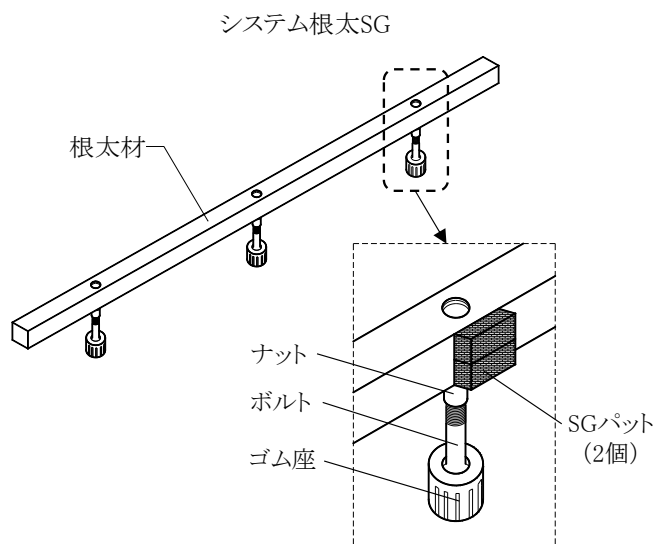
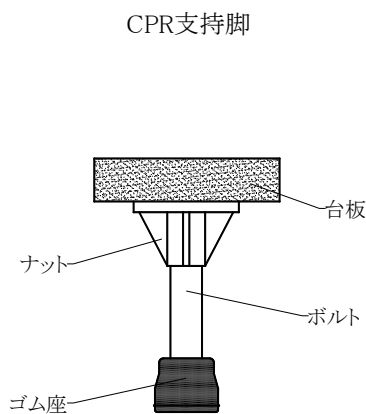
きわ根太を基準として2尺×6尺の床パネルを支持脚で連結していく「きわ根太基準工法」です。連結した床パネルの目地の隙間を通して床上からレベルを調整することが可能です。

### 2-2. 構成



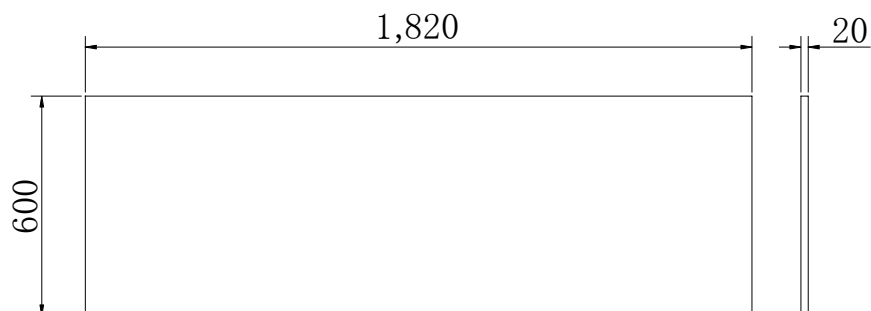
2-3. 製品規格

部材名		材質	備考
床パネル		パーティクルボード JIS・MR1(M)-18	F☆☆☆☆ 長さ1,820×幅600×厚み20〔mm〕
制振マット		アスファルト系	長さ910×幅455×厚み12〔mm〕 密度2.5g/cm <sup>3</sup>
CPR支持脚	台板	パーティクルボード JIS・MR1(M)-18	F☆☆☆☆ ブチル系両面テープ付 長さ88×幅88×厚み20〔mm〕
	ナット	ポリプロピレン(PP)	長さ4種類
	ボルト	ポリアミド(ナイロン6)	長さ6種類
	ゴム座	スチレンブタジエンゴム (SBR)	ゴム硬度70° φ31×高さ25〔mm〕
システム根太SG	根太材	LVL(集成材)	F☆☆☆☆ 長さ910×幅30×厚み30〔mm〕
	ナット	スチール	長さ2種類
	ボルト	スチール	長さ7種類
	SGパット (緩衝材)	発泡ポリエチレン	幅30×高さ15×厚さ10〔mm〕
	ゴム座	スチレンブタジエンゴム (SBR)	ゴム硬度70° φ31×高さ20〔mm〕
	接着剤	1液型ウレタン系	F☆☆☆☆ 容量400g/本



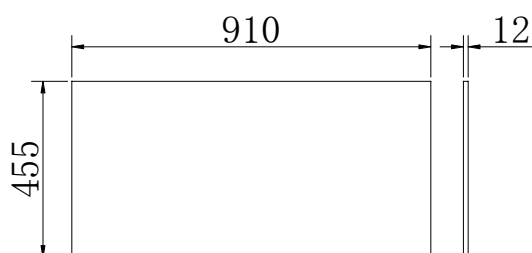
#### 2-4. 床パネル規格

寸法: パーティクルボードJIS・MR1(M)-18 長さ1,820×幅600×厚み20〔mm〕



#### 2-5. 制振マット規格

寸法: 長さ910×幅455×厚み12〔mm〕

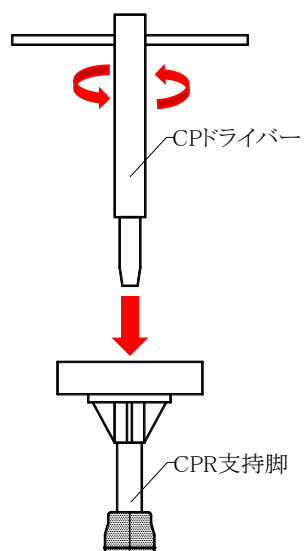


#### 2-6. 別売部材「CPドライバー」

CPドライバーは支持脚のレベル調整時に使用いたします。上部からボルトの穴に差し込んで手で回転させてください。



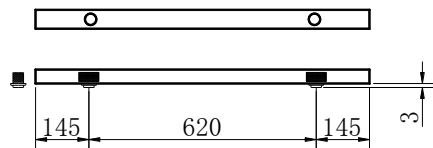
CPドライバー



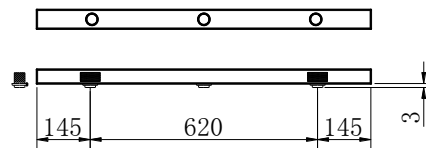
## 2-7. システム根太SG規格

[根太材・ナット・SGパット]

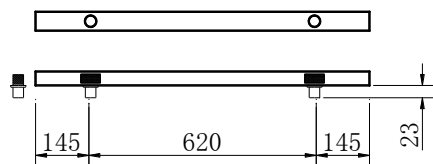
・システム根太SG 910×30×30-2S



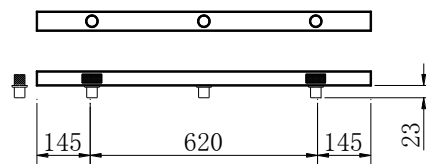
・システム根太SG 910×30×30-3S



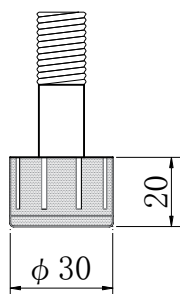
・システム根太SG 910×30×30-2M



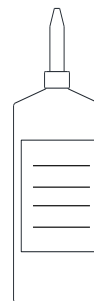
・システム根太SG 910×30×30-3M



[ボルト・ゴム座]



[接着剤]



### ●システム根太SGの使い分けについて

システム根太SGは、システム根太SG 910×30×30-2M(S)(ボルト2本)の場合とシステム根太SG910×30×30-3M(S)(ボルト3本)の場合で施工する箇所を使い分けてください。

システム根太SG	施工箇所
システム根太SG 910×30×30-2S (ボルト2本) システム根太SG 910×30×30-2M (ボルト2本)	LD・洋室の一般壁際部
システム根太SG 910×30×30-2S (ボルト3本) システム根太SG 910×30×30-2M (ボルト3本)	開口部・台所・サッシ・敷居

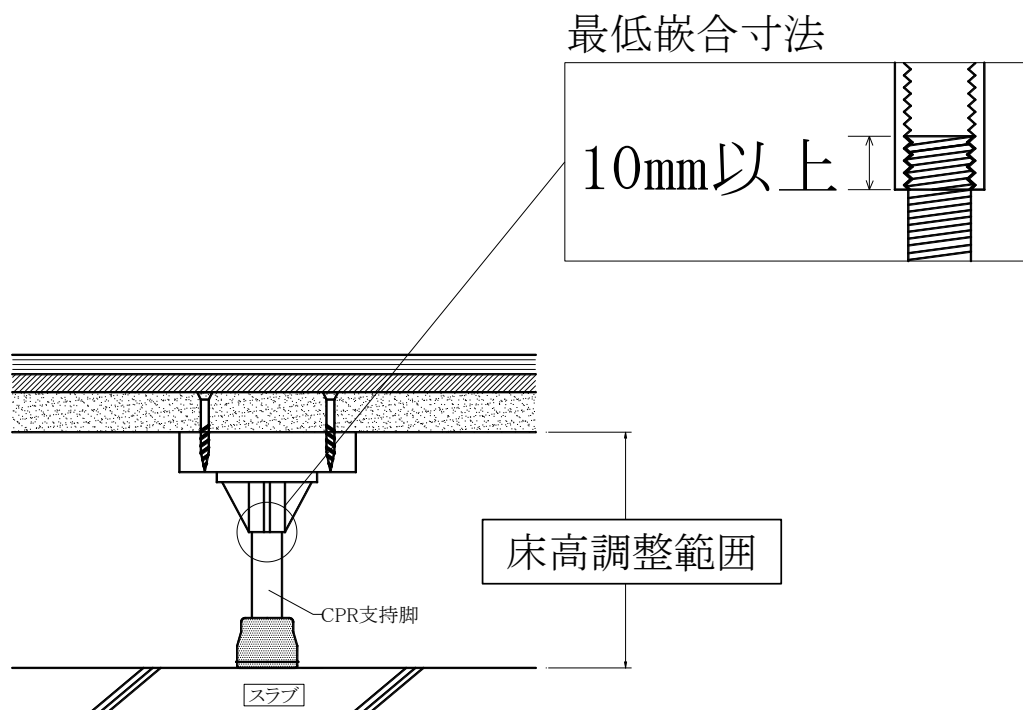
### 3. 床高調整範囲

- ・最低嵌合寸法…ナットにボルトを嵌合しておくべき最低必要長さ〔下図参照〕
- ・床高調整範囲…スラブから床パネル天端までの床高さ〔下図参照〕
- ・中央高さ…調整範囲の中央値

#### ●CPR支持脚

[mm]

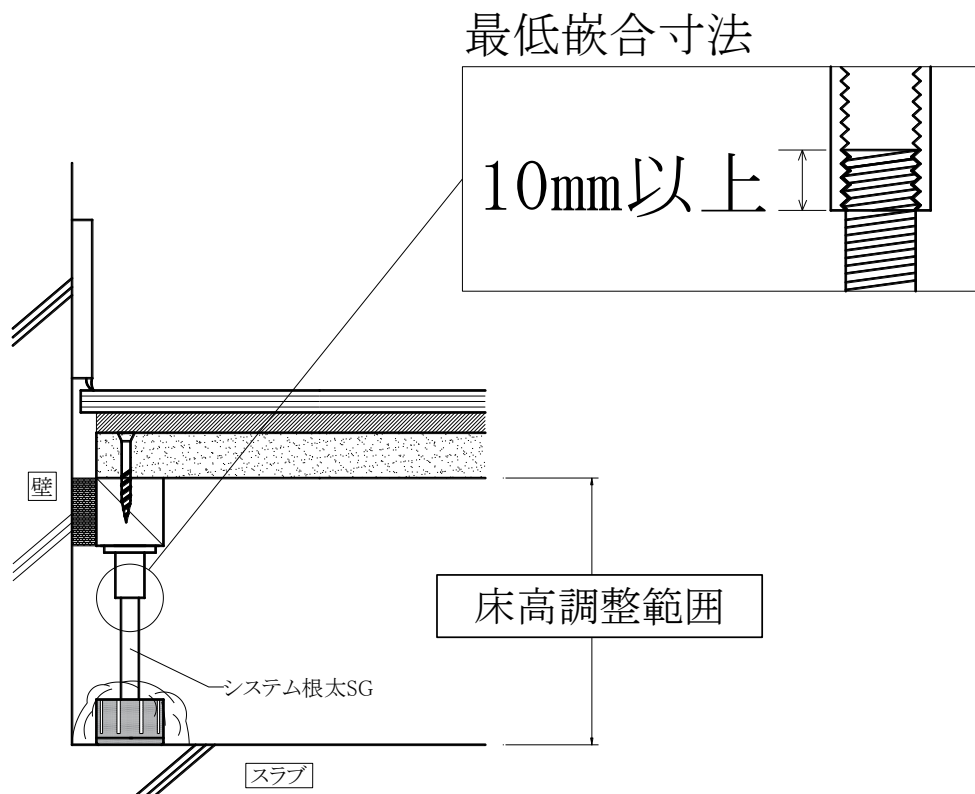
品名	最低嵌合寸法	床高調整範囲	中央高さ
CPR支持脚5-63R	10	80～98	89
CPR支持脚15-63R		80～108	94
CPR支持脚M30-88R		95～148	122
CPR支持脚M30-113R		113～198	143
CPR支持脚M30-138R		138～198	168
CPR支持脚M30-163R		163～243	203
CPR支持脚M30-188R		188～254	221



●システム根太SG

[mm]

品名		最低嵌合寸法	床高調整範囲	中央高さ
ナット	Sボルト			
3	53	10	80~96	88
23	73		93~136	105
	103		123~166	145
	133		153~196	175
	163		183~226	205
	193		213~254	235
	223		243~254	260





## 4. 施工手順

---

### 4-1. 施工を始める前の確認・点検事項

#### ●床スラブのレベル及び不陸の確認

- ・コンクリートスラブのレベルを確認する。
- ・きわ根太の高さと掃き出しサッシ、木製建具、家具式クローゼット、配管等との取り合いを確認する。
- ・CPR支持脚、システム根太SGが設置できないような不陸、傾き等をあらかじめ確認する。不陸、傾き等によって施工ができない状態であれば、元請業者に報告し、補修を行う。
- ・床の高さに合った調整範囲のCPR支持脚、システム根太SGを用意する。

#### ●使用材料の保管場所

- ・各材料は水のかからない、水平で直射日光が長時間当たらない場所に保管する。
- ・床パネルや合板は湿気の少ない場所に直置きする。立て掛けは厳禁とする。

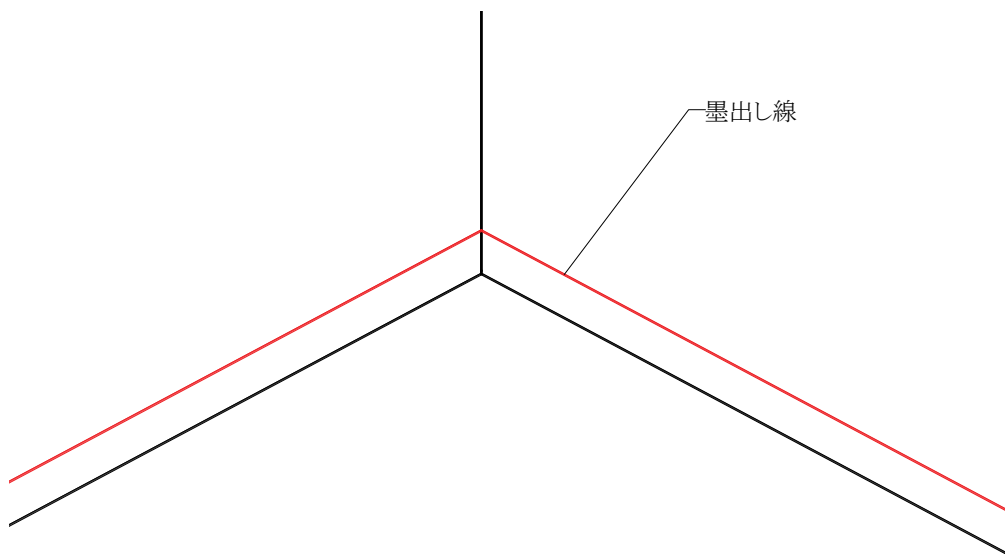
#### ●床下地面の清掃

- ・木屑、ゴミ等を除去する。
- ・スラブが濡れている場所、水たまりがある場所は、乾かす。

## 4-2. 施工手順

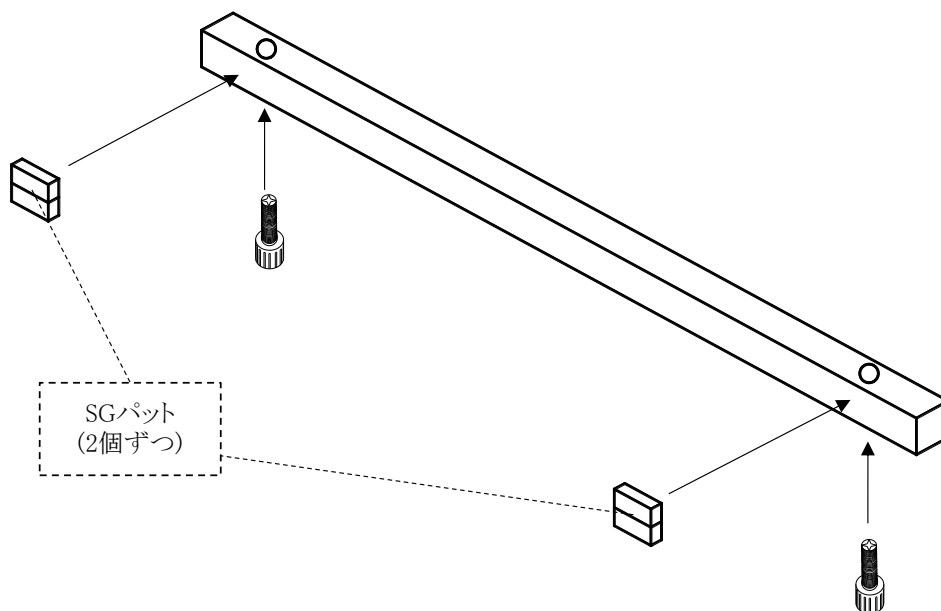
### ①墨打ち

床の仕上げ高さ及び仕上げ材の厚みを図面で確認の上、根太の天端に合わせて墨出しを行います。



### ②システム根太SGの組立

所定の高さにある程度合わせてシステム根太SGのナット部にSボルトをセットします。  
根太材の側面の所定の位置にSGパットを貼り付けます。

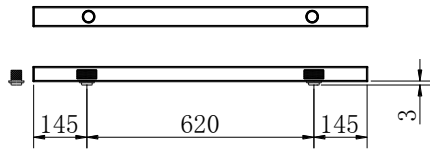


[SGパット貼り付け位置]

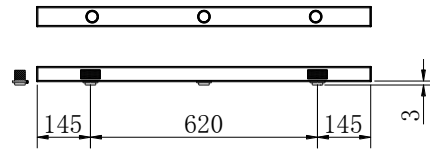
下記の図に基づいてSGパットを根太材の所定の位置に貼り付けてください。

■ : SGパット貼り付け位置

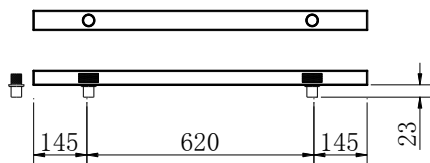
システム根太SG 30×30×910-2S



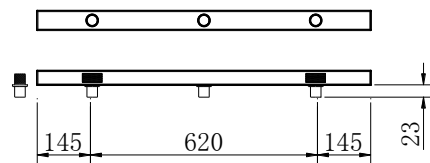
システム根太SG 30×30×910-3S



システム根太SG 30×30×910-2M



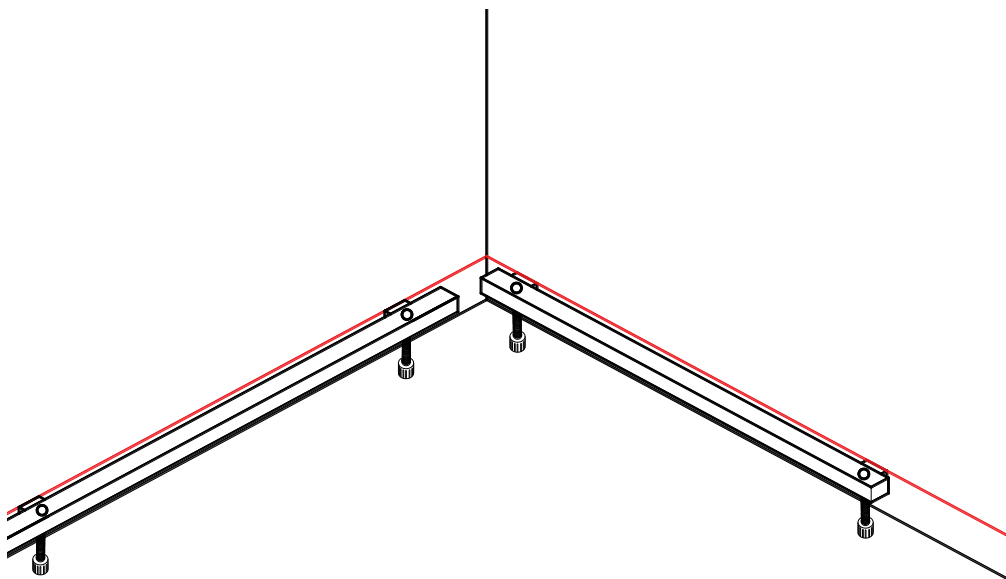
システム根太SG 30×30×910-3M



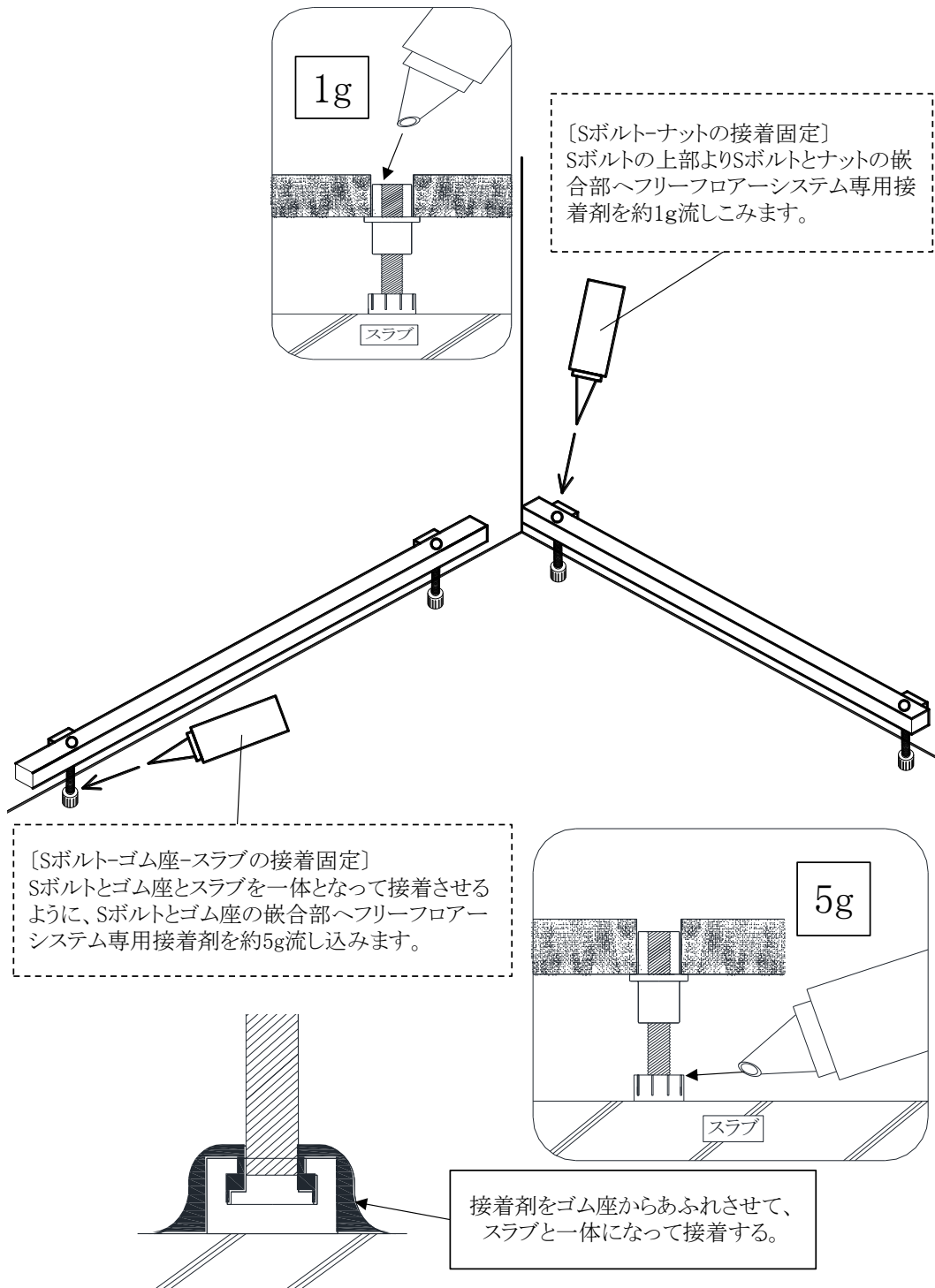
③システム根太SGの取り付け

Sボルトが接地する床スラブにホコリ等が無いことを確認し、墨打ち線に合わせながらプラスドライバー(3番)でレベル調整を行います。

調整後、SGパットの剥離紙を剥がし、基準墨を確認しながら壁に貼り付けます。



④Sボルト-ナットの接着固定、Sボルト-ゴム座-スラブの接着固定

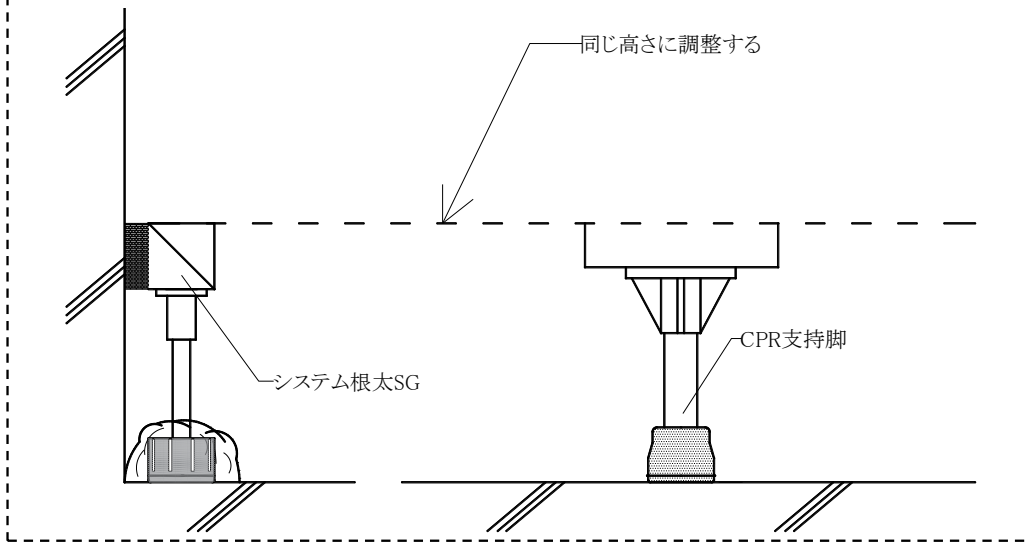


※注意

- ・約2時間で初期接着力が現れます。(低温時には硬化に時間がかかる場合があります。)
- ・接着養生中はシステム根太SGに触れたり、床への衝撃を避けてください。(床レベルが変わる可能性があるため)

〔CPR支持脚の高さ仮調整〕

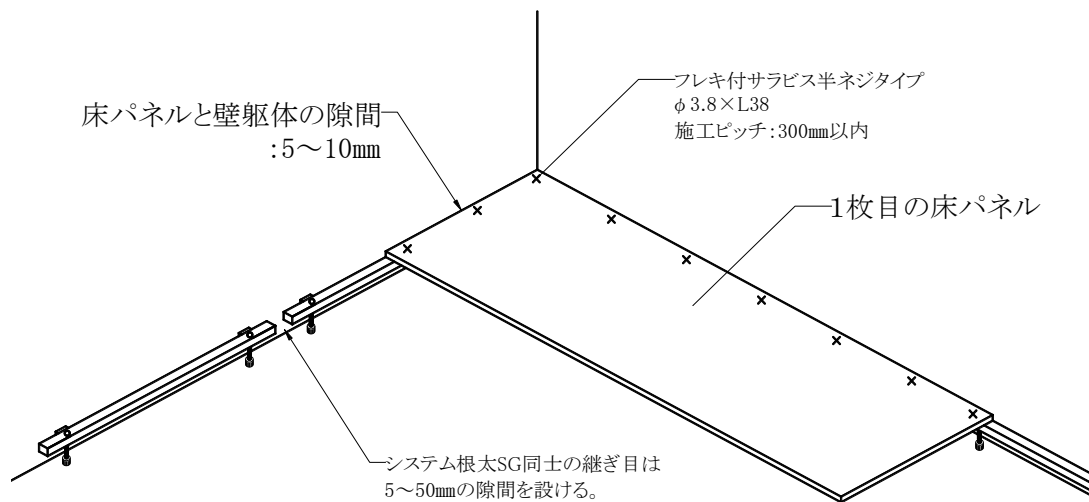
システム根太SGの根太材上面とおおよそ同じ高さにCPR支持脚をレベル調整する。  
レベル調整は、CPR支持脚はCPドライバーをボルトへ差し込んで行う。



⑥1枚目の床パネルの敷込み

1枚目の床パネルをシステム根太SGに載せる。この時、床パネルと壁躯体との間に5～10mmの隙間を設ける。

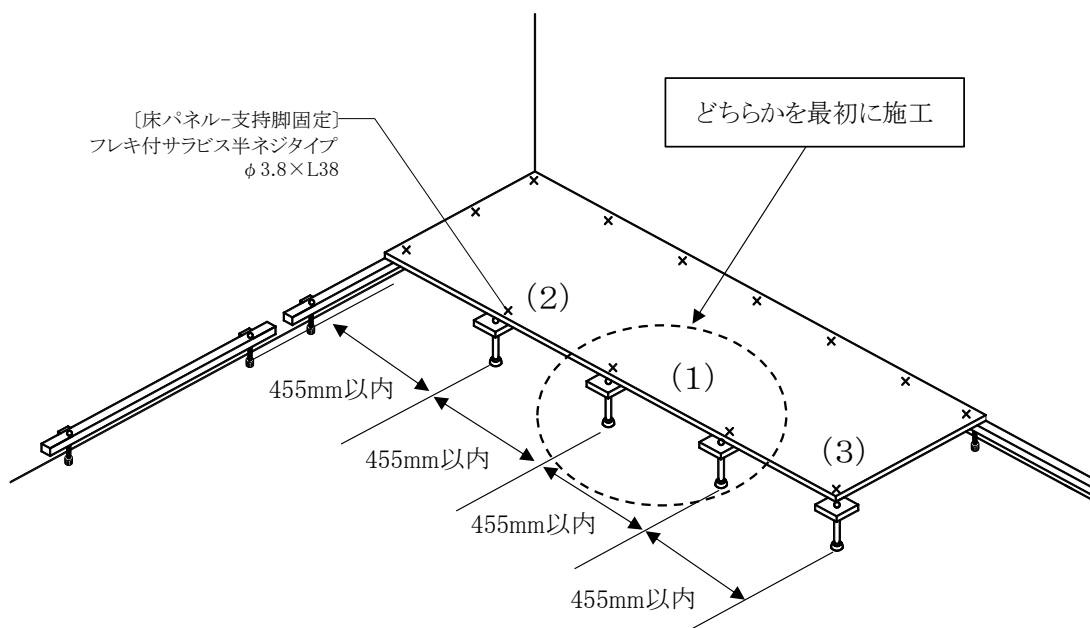
システム根太SGにかかる床パネルをフレキ付皿ビス(φ3.8×L38、ピッチ300mm以内)で固定する。



### ⑦1枚目の床パネルに支持脚を設置

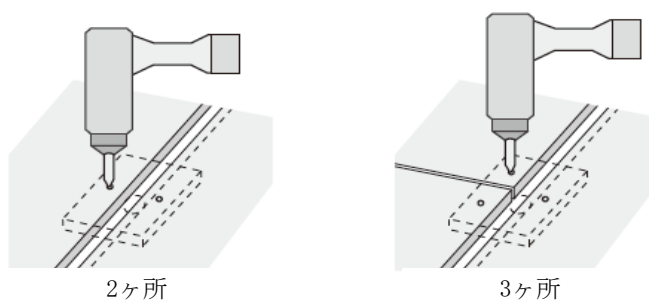
CPR支持脚の両面テープの剥離紙をはがし、455mmピッチでパネル長辺(1)の支持脚どちらか一方を設置し、床の仕上げ高さまで仮レベル調整し、床パネルを支える。

同様に(1)のもう一方のCPR支持脚を設置し、次に(2)を設置し、最後にパネル長辺角部(3)に設置する。



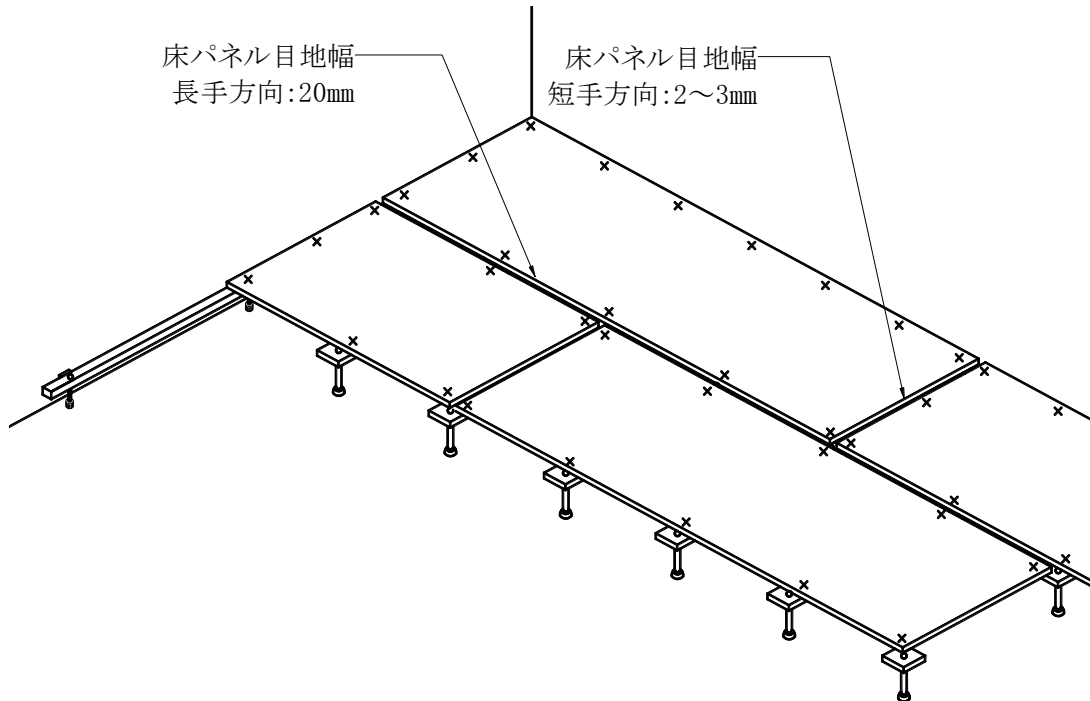
### ⑧ 床パネルの固定

床パネルは、フレキ付サラビス半ねじタイプ φ3.8×L38で下図のように固定する。



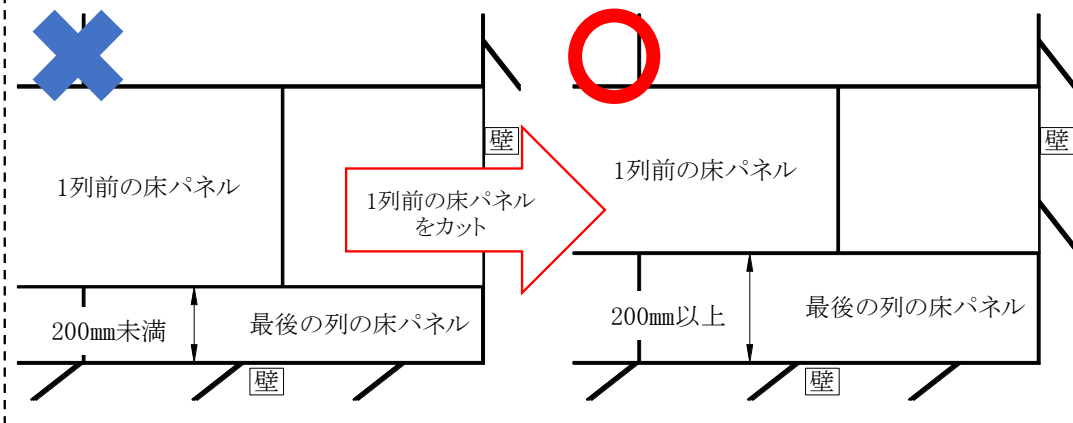
### ⑨2枚目以降の床パネル敷込み

割付け図に従い千鳥になるように床パネルを敷込みます。床パネル間の目地幅は長手方向は約15mm、短手方向は約2~3mmあけてください。



#### ※注意

最後の列に設置する床パネルは、幅を200mm以上とする。200mm未満になる場合は、1列前の床パネルの幅をカットして200mm以上になるように調整する。



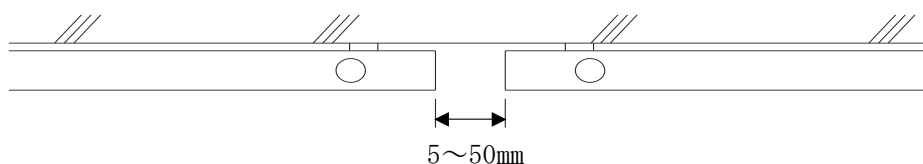
## ⑩最終レベル調整

床パネルを全面に敷設したら、最終レベル調整を行い、床パネルの上を歩いて床鳴りが発生しないかを確認する。床鳴りする場合は、制振マットの施工前に補修を行います。

## 5.システム根太SG配置方法

### 5-1. 一般部

- システム根太SG同士の継ぎ目は5～50mmの隙間をあけます。



〔跳ね出し部分のカット〕

壁躯体の長さによってはシステム根太SGがきれいに納まらない場合があるため、根太材の跳ね出し部分を必要長さにカットしてください。(跳ね出し部分のカットは最大120mmまで)

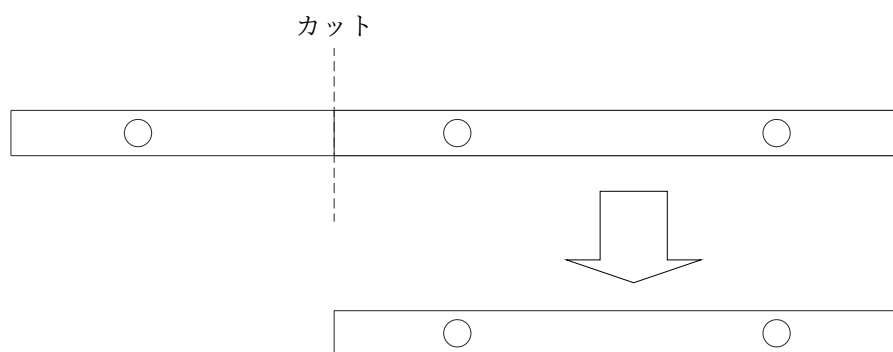
システム根太SG30×30×910-3S(3M)の場合は、3本の支持脚のうち、2本の支持脚を残して根太材をカットして使用することも可能です。



- ・システム根太SG30×30×910-2S(2M)の場合



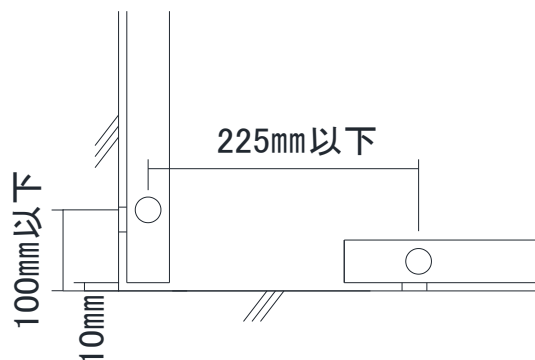
- ・システム根太SG30×30×910-3S(3M)の場合





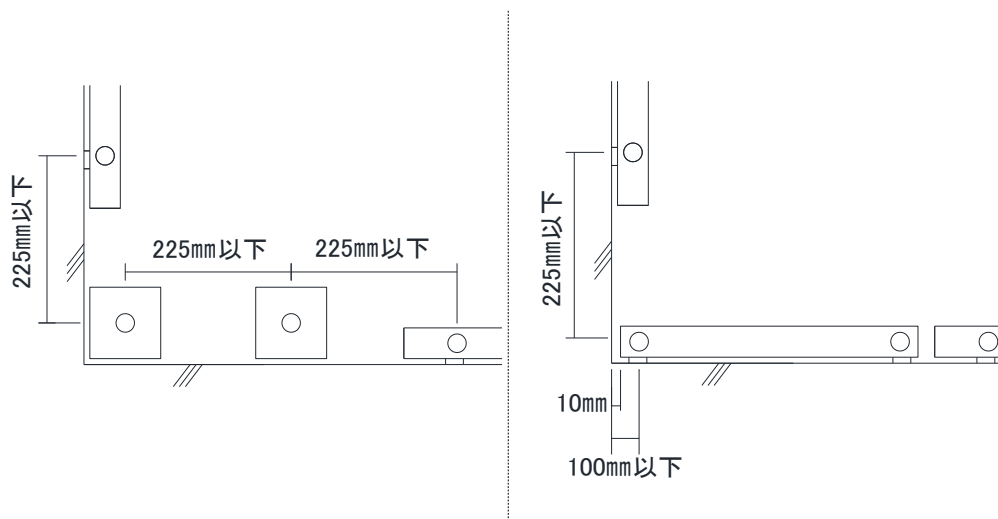
## 5-2. 入隅部

- システム根太SGの支持脚が壁躯体から100mm以下になるように、どちらか一方の根太材の跳ね出し部分をカットし、壁躯体から10mm程度の隙間をあけます。  
もう一方のシステム根太SGは、支持脚間の距離が225mm以下になるようにします。



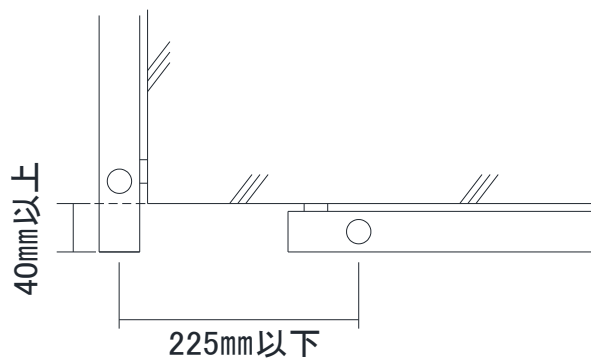
[225mmを超えてしまう場合]

- システム根太SGの支持脚との間隔が225mm以下になるようにCP-F支持脚を設置する[左下図]
- 跳ね出し部分を必要長さにカットしたシステム根太SG[右下図]を設置します。



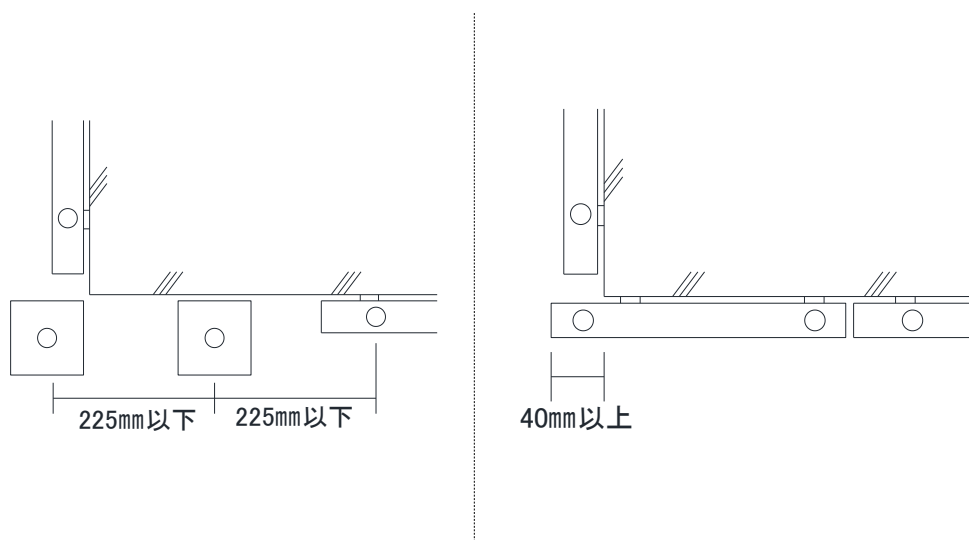
### 5-3. 出隅部

●どちらか一方のシステム根太SGの支持脚を跳ね出し部分が出隅部から40mm以上飛び出すようにし、もう一方のシステム根太SGの支持脚との距離が225mm以下となるようにします。



[225mmを超えてしまう場合、40mm以上飛び出せない場合]

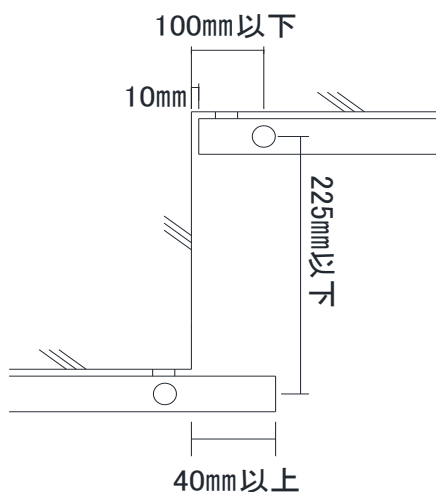
システム根太SGの支持脚との間隔が225mm以下になるようにCP-F支持脚を設置する〔左下図〕か、跳ね出し部分を必要長さにカットしたシステム根太SG〔右下図〕を設置します。



#### 5-4. 柱型部

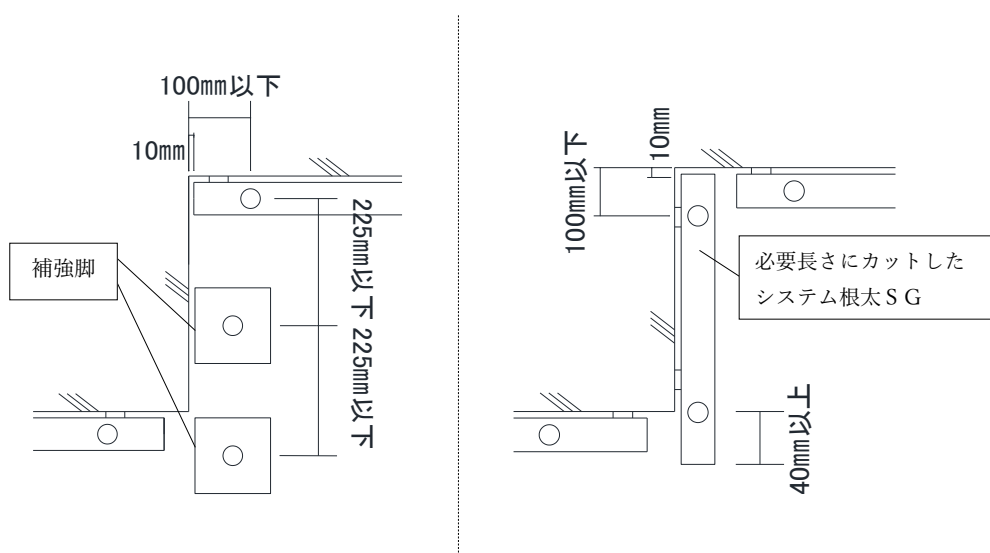
●システム根太SGの支持脚が壁躯体から100mm以下になるように、どちらか一方の根太材の跳ね出し部分をカットし、壁躯体から10mm程度の隙間をあけます。

もう一方のシステム根太SGは、支持脚間の距離が225mm以下になるように施工し、かつ、システム根太SGの跳ね出し部分が柱型部から40mm以上飛び出すようにします。



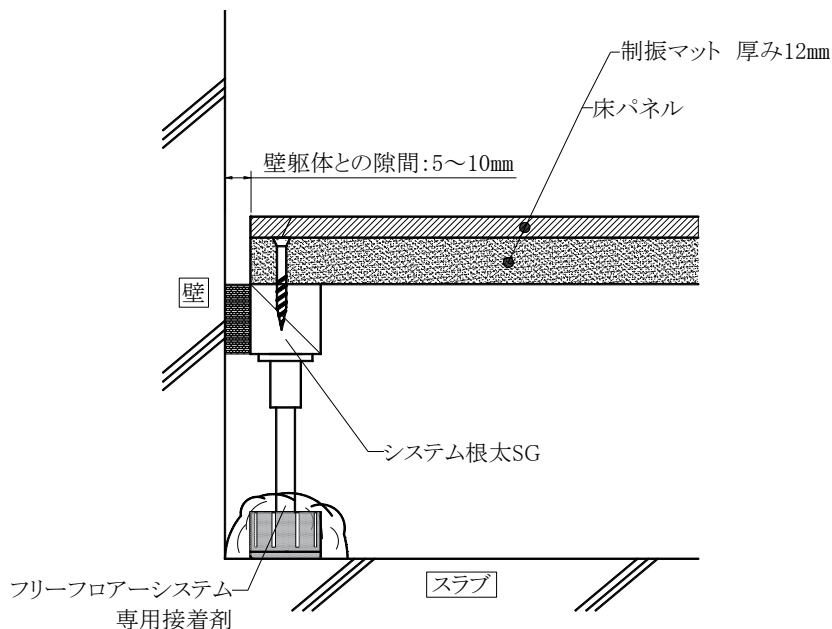
[225mmを超えてしまう場合、40mm以上飛び出せない場合]

システム根太SGの支持脚との間隔が225mm以下になるようにCP-F支持脚設置する〔左下図〕か、跳ね出し部分を必要長さにカットしたシステム根太SG〔右下図〕を設置します。



## 6. 制振マットの施工に関する注意点

- ・床パネル面を清掃後、制振マートを敷き込んでください。
- ・制振マットと床パネルの目地が重ならないように、また、制振マット同士は隙間が空かないように敷き詰めてください。
- ・制振マットと床パネルは固定せず、置くだけとしてください。
- ・壁際に施工する際は、制振マットと壁躯体との間に5～10mmの隙間を設ける。



## 7. 仕上げ材の施工に関する注意点

- ・原則、仕上げ材メーカーの施工要領に従って施工してください。

### ※注意

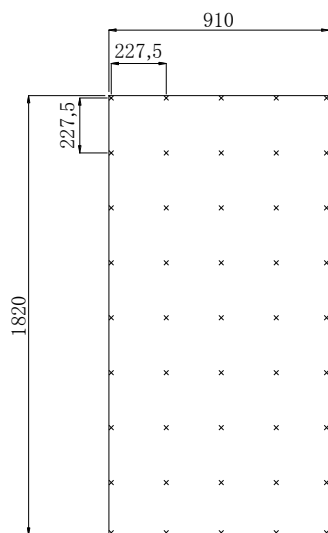
- ・フローリングの目地と床パネルの目地が重ならないように施工してください。このとき、床パネルに対するフローリングのかかり寸法は150mm以上としてください。
- ・フローリングの張り方向は、床パネルと直行するように施工してください。
- ・フローリングの固定に使用する接着剤は、仕上げ材メーカーの指定接着剤か弾性ウレタン系接着剤を使用してください。
- ・フローリングの張り始めや張り終いの固定には、フィニッシュネイルや隠し釘は使用しないでください。仕上げ材メーカーの指定するステーブルやスクリュー釘等を使用してください。

## 8. 捨張合板の施工に関する注意点

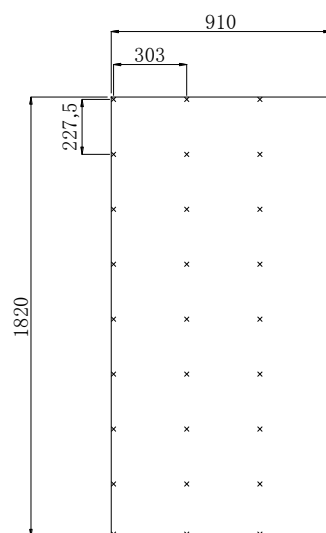
- ・捨張合板の張り方向は、床パネルと直行するように施工してください。
- ・捨張合板の目地と床パネルの目地が重ならないように施工してください。このとき、床パネルに対する捨張合板のかかり寸法は150mm以上としてください。
- ・最後の列に施工する捨張合板は、幅を200mm以上としてください。
- ・捨張合板は、下図のように固定してください。

[厚み12mm合板の場合]

留め方: スクリュー釘 (32mm以上)  
ピッチ: 縦9本×横5本=45本以上



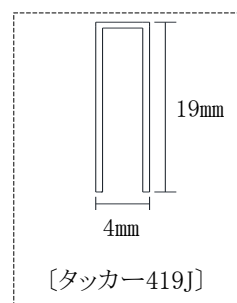
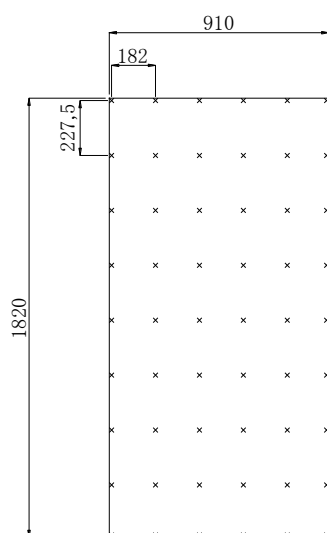
留め方: ビス (32mm以上)  
ピッチ: 縦9本×横4本=36本以上



× : ビス留め位置

[厚み5.5mm合板の場合]

留め方: タッカー (419J相当)  
ピッチ: 縦9本×横6本=54本以上

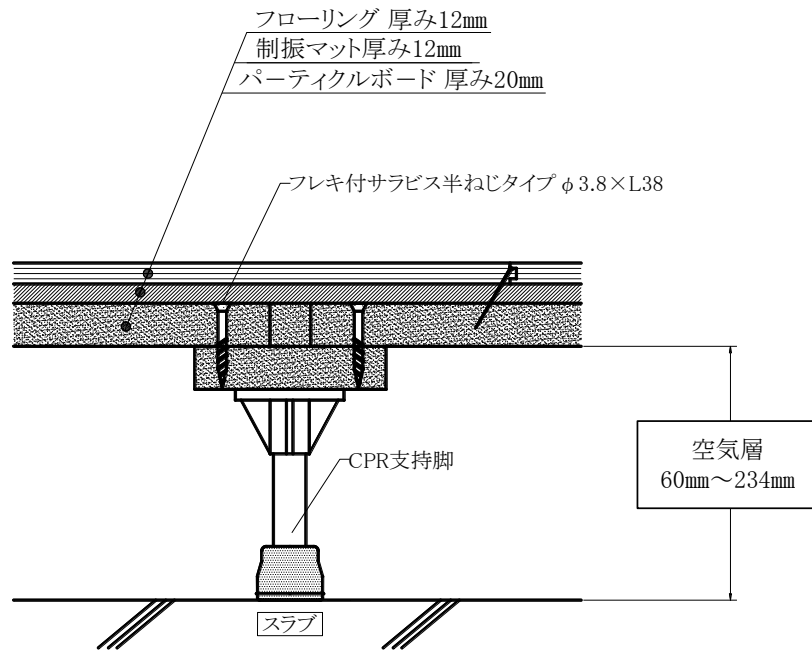


[タッカー419]

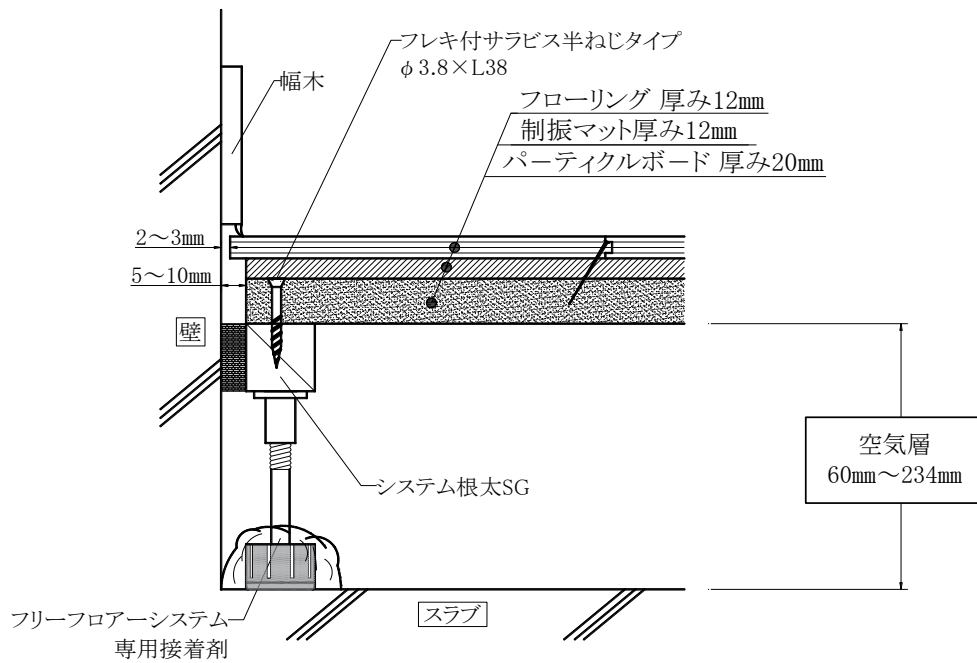
× : ビス留め位置

## 9. 参考納まり図

### ● 一般部



### ● 壁際部



10.標準割付図(壁先行工法)

※注意

・床パネルはフローリングと直交する方向に割付けてください。平行方向に割付けると床の強度が低下する恐れがあります。

・最後の寸法調整で床パネルをカットする場合は、パネル寸法が200mm以上となるようにしてください。200mm未満となる場合は、1列手前から調整してください。

